

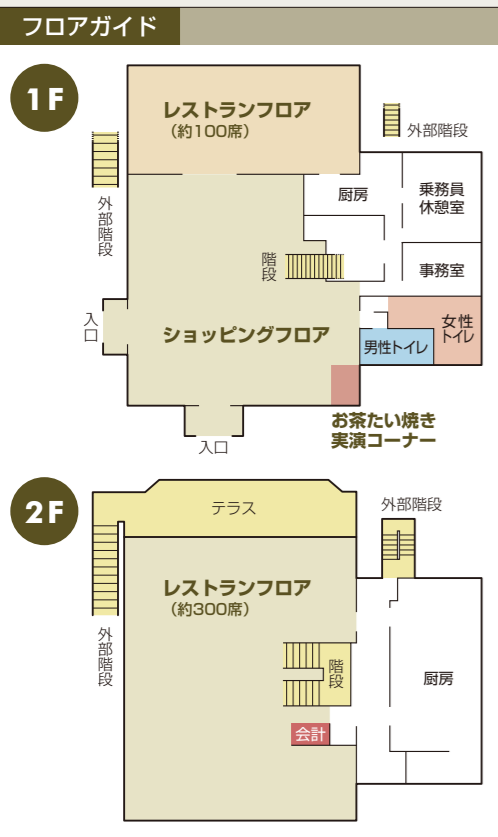


ショッピングガイド

Shopping Guide

静岡ならではの品を、お土産や旅の思い出に。

1Fショッピングフロアでは、静岡の名産品や限定品などを販売しております。
静岡ならではの抹茶やわさび味のアイスクリーム、お茶たい焼き、お茶まんじゅうを始め、名物安倍川餅や、銘菓ミホミのこっこなど、おなじみのお土産もご用意しています。



▲2F レストランフロア
富士山を一望しながらお食事ができます。約300席あるので大口の団体様でも収容できます。

▲1F レストランフロア
約100席ございます。こちらの部屋からも富士山が見えます。



近隣マップ

■東 名…清水I.C.及び静岡I.C.より30分
■新東名…新静岡I.C.より35分

「赤い靴」のふるさと

野口雨情の童謡「赤い靴」が、世に知られるようになりましたのは、大正十年に雨情が「赤い靴」の詩をつくり、翌十一年に本居長世がこれに作曲し、長世の幼い娘さんたちが、遊びの中で口ずさんだりしていたのが、全国に広がったと言われています。

「赤い靴の女の子」の実像を求めて

「赤い靴」のモデルの実像が明らかになったのは昭和四十八年十一月の北海道新聞夕刊に掲載された、岡そのさん(大正二年生まれ)の投稿記事が発端でした。

(私が生まれる十年も前に日本を去った姉、今となっては顔も姿もしのぶよしもありませんが、顔を閉じると赤い靴をはいた四才の女の子が、背の高い青い目の異人さんに手を引かれて、横浜の港から船に乗って行く姿が目につきます。この姉こそ後年野口雨情が「赤い靴」に書いた女の子なのです。)

この投稿記事が導火線となり、当時北海道テレビ記者だった菊池寛さんが「赤い靴の女の子」の母親の出身地である清水市を皮切りに、「赤い靴の女の子」の義妹にあたる、そのさんの父親の出身地青森、野口雨情の生家のある茨城県、北海道各地の旧開拓農場跡、東京、横浜、ついにアメリカにまで渡り「赤い靴の女の子」が実在していたことがわかったのです。

彼女の名前は岩崎さき、明治三十五年七月に日本平麓の旧不二見村(現在の清水区宮加三)で生まれていたのです。
さきちゃんは赤ちゃんの時、北海道へ渡ったのですが母親に再婚の話がもちあがり、三才の時にアメリカ人宣教師のチャールズ・ヒュエット夫妻のもとへもたわて行きました。
さきちゃんの母親は結婚して夫志郎と共に開拓地へ入植したのですが、努力も報いられず、失意の末札幌へ引き揚げました。志郎が就職した小さな新聞社で野口雨情と出会い、気心も合い、家族ぐるみの親交を重ねました。母親がよが、自分の娘さきを宣教師夫妻に養女にやりアメリカへ渡ったことを野口雨情に話したのが「赤い靴」の詩の原型になったのです。
母がよは、のちのちまで自分の娘さきは宣教師夫妻と一緒にアメリカで、元気に暮らしているものと信じきっており、前記の岡そのさんの投稿記事もそれを裏打ちしていると思います。

さきちゃんはアメリカへ渡っていなかった

ところが菊池さんの調査により、赤い靴のさきちゃんはアメリカへ渡っていなかったのです。宣教師が任務を終え帰国しようとした時、さきちゃんは不治の病におかされ長病がでせず、やむなく東京のキリスト教系の孤児院へ預けられましたが、四十四年九月十五日の夜、九才の生涯を閉じていたのでした。死因は結核性腹膜炎だったとのことです。

この「赤い靴」の人間模様は、北海道テレビのドキュメンタリー番組として制作され、全国ネットで放映されたり、菊池寛さんが著述した「赤い靴はいた女の子」が赤い靴児童文化大賞特別賞に輝いたりして大反響を呼び起こしました。

さきちゃん母子の里帰りを母子像建設で

こうしたことを背景に、昭和六十年六月から「赤い靴の女の子」さきちゃんと母かよの母子(おやこ)を八十二年ぶりに故郷(ふるさと)の清水へ里帰り再会させ、母子(おやこ)の永遠(とこしえ)のやすらぎを母子像に託そうと、募金運動が展開されました。この運動はまたたく間に全国に波及し、昭和六十一年三月三十一日の除幕までに、七万余人という多くの方々から二千万円という浄財と、数多くのメッセージが寄せられました。
多くの人々の熱いまなざしと期待を背に、母子(おやこ)の出生地先の、日本観光地百選コンクール平原の部第一位の景勝地である日本平山頂の一角に、母子像が建立されたことは、母子(おやこ)への最高のプレゼントであり、さざかし泉下で手を取りあって喜んでくれることと思います。

また、この像の制作者が斯界でも名声の高い、日展評議員の高橋剛先生で、奇しくもこの母子像が芸術院恩賜賞受賞作品であることも、純粋な心を求める七万余人の願いに光彩を放ったのであります。
この運動の糸口をつくった、現北海道テレビ制作部部長の菊池寛さんが除幕時に発行した当市の記念誌に、「この母子像は私たちにとって最も大切なことを永遠に語りかけてくれるに違いない」と言われておりますが、この証(あか)しとなることを信じてやみません。

昭和61年発行 清水市観光協会小冊子より抜粋

日本平夢テラス

NIHONDAIRA YUME TERRACE

開館時間 日～金曜日 / 9:00～17:00
土曜日 / 9:00～21:00
※展望回廊は終日入場できます

休館日 第2火曜日及び年末(12月26日～31日)

入館料 無料

★月日星より徒歩3分

富士山をはじめ三保松原、駿河湾、南アルプスなど360度の眺望をお楽しみいただけます。

所在地 静岡県静岡市清水区村松 4047-1

営業時間 9:00～17:00

休館日 年中無休(臨時休業あり)

駐車場 無料大駐車場完備

0120-34-1485

TEL/054-334-1485 FAX/054-335-3879

http://www.nihondairashimizuya.jp

日本平月日星



風わらい、光はずむ。
ふるさと広場

月日星

つきひぼし



光を呼ぶ声...「月日星」の由来

「月日星」の名は、日本平に棲む鳥の鳥・サンコウ鳥のユニークな鳴声から。なんと「ツキ・ヒー・ホイホイホイ」と聞こえるのです。この鳥は、月と日と星、三つの光を招く鳥として三光鳥と呼ばれ、めったに人前に姿を見せない神秘的で貴重な鳥です。

こだわりの茶葉を使った逸品

お茶たい焼き

ここでしか食べられない味、と評判が高い「月日星のお茶たい焼き」。川根産の無農薬茶葉を練り込んだ生地は、一口はお張れば、ふんわりとした舌触りとふくよかな緑茶の香りが押し寄せ、まさに静岡ならではの銘菓。日持ちしないため、ぜひ現地で召し上がりいただきたい逸品です。
※季節によっては、苺餡、梅餡、桜餡もご用意しております。

単品でもセットでもお楽しみいただけます。

■単品(テイクアウト) ■煎茶セット ■抹茶セット

